

現場説明書

工事名: R2徳環 徳島環状線 徳・国府 橋梁下部工事

工 程

1 他工事等との調整 (対象 有)

- 1 本工事区間の近傍に別途「R1徳環 徳島環状線 徳・国府 橋梁上部工事」が施工中である。このため、本工事は、他工事との工程調整を常に行い、双方の工事に支障がないように努めなければならない。

2 施工の制限(対象 有)

本工事の河川内に係る工事について、令和3年4月下旬までに仮締め切りの撤去を予定している。なお、本工事のうち、場所打杭工、橋台躯体工、護岸工については、施工パーティー数を2組で想定している。

3 作業時間帯(対象 有)

本工事の作業時間帯は、下記に示すとおりとする。なお、関係機関等との調整の結果、作業時間帯に変更が生じた場合は、速やかに監督員と協議するものとする。

工種	種別	時間帯	期間
場所打杭工		9:00～17:00	協議により決定

なお、本工事の施工にあたり、関係機関・自治体等から時間的制約条件を付された場合は、速やかに監督員と協議するものとする。

4 工事履行報告書(対象 有)

監督員が工程を把握し必要に応じて工事促進の指示を行う必要があるため、設計図書に基づき工事履行報告書を作成するものとする。

5 その他(対象 無)

用地関係

1 護床マット製作ヤード(対象 有)

本工事の護床マット製作ヤードは、現場内を見込んでいます。

2 仮置ブロック(対象 無)

支障物件

受注者は、工事着手前に必ず工事施工箇所の支障物件について確認し、監督員に「支障物件確認書(現場着手時)」を提出し、監督員の確認を受けた後、工事に着手すること。

1 支障物件の事前調査(対象 無)

2 支障物件の撤去(対象 無)

3 立木の置き場所(対象 無)

4 その他(対象 無)

公害対策

1 作業時間(対象 有)

- 1 本工事において、公害対策上から作業時間を9:00～17:00を標準としている。

2 事業損失防止対策(対象 無)

現場説明書

工事名: R2徳環 徳島環状線 徳・国府 橋梁下部工事

3 汚濁防止(対象 有)

工事で発生する濁水に対しては、汚濁防止を行うものとしその工法については、設計図書によるものとする。
なお、これにより難しい場合は、監督員と別途協議するものとする。

4 低騒音型・低振動型建設機械(対象 有)

本工事は低騒音型・低振動型建設機械の使用を見込んでいる。なお、これによりがたい場合は監督員と協議するものとする。

4 六価クロム溶出試験(対象 無)

安全対策

1 交通安全施設等(対象 無)

2 交通誘導警備員(対象 有)

本工事の交通誘導警備員は次のとおり見込んでいる。なお、警察等との協議により変更が生じた場合は別途協議するものとする。

配置場所	現場
必要日数	10日
交通誘導警備員A	
交通誘導警備員B	10人(交替要員無し)

3 足場通路等からの墜落防止措置(対象 有)

高さが2m以上の箇所で作業を行う場合は、墜落防止に留意し、作業日毎に「墜落防止チェックシート」を活用して点検を行い、その記録を保管すること。

建設副産物

1 建設発生土の利用(対象 有)

本工事は、次に掲げる工事からの建設発生土を使用するものとする。なお、品質等により使用が困難な場合は、監督員と協議するものとする。

工事名	R1徳環 徳島環状線 徳・新浜本 道路改良工事(2)
箇所名	徳島市新浜本町2丁目～4丁目(第2分割)
運搬距離	L=13.1km

2 建設発生土の搬出(対象 有)

本工事の建設発生土については、現場内に仮置きするものとする。なお、仮置場の使用が困難となる場合は、監督員と協議するものとする。

箇所	A2橋台側作業ヤード
箇所名	徳島市国府町川原田
運搬距離	L=0.3km

現場説明書

工事名: R2徳環 徳島環状線 徳・国府 橋梁下部工事

3 再生利用のための建設副産物の搬出(対象 有)

- 1 受注者は、本工事の施工により発生する次の建設副産物について、再資源化を行うため産業廃棄物中間処理許可施設(再資源化施設)へ搬出すること。また、搬出に際しては、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」を遵守しなければならない。
- 2 受注者は、建設副産物の搬出前に受入場所・条件等について、監督員と協議するものとする。
- 3 自己処理を希望する場合は、監督員と協議するものとする。
- 4 受入先との協議の結果、再資源化が困難である場合は、監督員と協議するものとする。

	コンクリート塊	アスファルト塊	木材	汚泥	その他
対象物	○				

4 最終処分のための建設副産物の搬出(対象 無)

5 建設汚泥の自工事現場内における再生利用(対象 無)

6 建設汚泥の中間処理方法等(対象 無)

7 建設汚泥処理土の利用(対象 無)

8 建設汚泥処理土の搬出(対象 無)

9 剥ぎ取り表土の利用(対象 無)

10 一般廃棄物の搬出(対象 無)

11 根株等の利用(対象 無)

12 根株処理工の出来高の算出(対象 無)

工 事 用 道 路

1 工事用道路等の補修(対象 有)

建設資材搬入等に伴い、現道補修および防塵処理等の必要が生じた場合には、監督員と協議を行って実施するものとし、必要と認められる経費については変更契約できるものとする。

仮 設 備

1 床掘(対象 有)

橋台工における床掘の施工に際し、安全管理上特別な対策を講ずる必要が生じた場合は、監督員と協議を行って実施するものとし、必要と認められる経費については、変更契約できるものとする。

2 鋼矢板等の打込引抜工法(対象 有)

鋼矢板の打込方法として、地質等の現地条件から油圧圧入工法を見込んでいます。

また、鋼矢板等の賃料は、A1側で148日間、A2側で129日間を見込んでいます。

なお、着手前に監督員と施工方法を協議した上で実施するものとし、工法等が変更となる場合は、監督員と協議するものとし、必要と認められる経費については変更契約できるものとする。

現場説明書

工事名: R2徳環 徳島環状線 徳・国府 橋梁下部工事

3 仮設防護柵工(対象 無)

4 仮締切り(土留)(対象 有)

橋台(場所打杭, 躯体)及び護岸の施工に際して, 鋼矢板による締切りを行う場合は下記により実施すること。

なお, 切梁腹起しの盛替え等が必要な場合は, 監督員と協議を行って実施するものとし, 必要と認められる経費については変更契約できるものとする。

矢板天端高	D.L.=5.2m (設計図面参照)	D.L.=5.7m (設計図面参照)	D.L.=5.2m (設計図面参照)	D.L.=5.7m (設計図面参照)
条件	A1杭施工時 (川側)	A1杭施工時 (陸側)	A2杭施工時 (川側)	A2杭施工時 (陸側)
主たる形状	IV型, L=11.0m	IV型, L=11.0m	IV型, L=11.0m	IV型, L=11.5m

全体の設置期間は, 令和2年10月 ~ 令和3年4月を予定している。

このうち, 本工事ではA1側で148日間, A2側で129日間の供用期間を見込んでいる。その他仮設材の供用期間は巻末に記載する。

なお, 引き渡し時期, 設置期間が変更となる場合は監督員と協議するものとし, 必要と認められる経費については変更契約できるものとする。

5 鋼矢板二重締切(対象 無)

6 水替施設(対象 有)

本工事の施工に必要な排水規模は, 次のとおり見込んでいるが施工時において大幅な変更が生じた場合には, 監督員と協議を行って実施するものとし, 必要と認められる経費については, 変更契約できるものとする。

イ. 設計外水位 —

ロ. 排水量・作業 0~40 m³/hr
時

ハ. 締切方法 鋼矢板

なお, 規格および矢板長は次表のとおりである。

形式	長さ	矢板天端高
IV型	L=11.0~11.5m	D.L.=5.2m以上

7 異常出水の処置(対象 無)

その他

1 図面の電子納品(対象 有)

本工事で提供する発注図面は, CADデータ(SFC形式)であるため図面を電子納品の対象とする。なお, 発注図面については次のとおりである。

CAD製図基準に準拠していない。

2 標準断面図板設置の省略(対象 無)

3 しゅん工標設置の省略(対象 無)

4 同一の場所において施工する工事同士の現場代理人の兼務(対象 無)

現場説明書

工事名: R2徳環 徳島環状線 徳・国府 橋梁下部工事

※現場代理人の兼務については、同一の場所において施工する工事同士の兼務のほか、仕様書に記載された要件を全て満たす場合についても兼務を認めている。

5 三者会議※(対象 有)

本工事は、三者会議対象工事とする。

三者会議の開催は、工事着手前に実施し、施工条件の変更等の問題が生じた場合には必要に応じ、監督員と協議を行って、複数回開催することができる。

※「三者会議」とは、発注者と受注者と設計者の三者が一堂に会することにより、設計者の意図や施工上の留意点を受注者に的確に伝え、設計図書と現場との整合性を確認協議することにより、工事施行の円滑化と品質の確保を図ることを目的とし実施する。

なお、基礎杭や大規模仮設等専門性の高い工種を伴う工事では、施工者に専門工事業者(下請)の主任技術者を加え会議を実施する。

また、地質構造の複雑な箇所、地形の変化が大きい箇所等、特に地質情報の不確実性が高い現場における工事や地質技術者が参画することで当該工事の品質確保が図られると認められる工事では、地質技術者を参加させ会議を実施する。

6 コンクリートの単位水量の測定(対象 有)

受注者は、次の表に示す工種について単位水量測定を所定の回数実施し、単位水量の管理シートを作成するものとする。

工種	配合	使用量	測定回数
場所打杭工	30-15-25(20) C \geq 350kg/m ³ BBorN	475m ³	10回
AL1橋台	24-12-25(20) BBorN	底版:120m ³ 躯体壁:34m ³	3回 1回 計3回
AR1橋台	24-12-25(20) BBorN	底版:49m ³ 躯体壁:13m ³	1回 1回 計2回
A2橋台	24-12-25(20) BBorN	底版:177m ³ 躯体壁:55m ³	4回 1回 計5回
		合計(回)	20回

7 セメント・モルタル吹付(対象 無)

8 水抜孔(対象 有)

本工事の水抜孔は次表を標準とする。

材料	管径	設置間隔	備考
VP管	65mm	3m ² に1箇所 (常時水位以上)	ブロック積 擦付コンクリート

9 種子吹付(対象 無)

10 植栽樹木の植え替え義務(対象 無)

11 使用材料の品質、規格、性能等(対象 無)

12 LED道路・トンネル照明灯の品質、規格、性能等(対象 無)

現場説明書

工事名: R2徳環 徳島環状線 徳・国府 橋梁下部工事

13 使用材料の品質規格等(製品名表示)(対象 有)

本工事に使用する材料(工法)については、次表に示す規格品質等を満足する材料(工法)とし、施工前に材料使用承諾願を監督員に提出しなければならない。

なお、次表に示す製品以外でも、品質規格等が同等と認められる場合は使用することができるものとする。

材料名	規格品質等	(参考)メーカー名	(参考)形式
場所打杭鉄筋かご固定金具	D32+FB9×75用, D32+FB12×75用, D25+FB9×75用, D22+FB12×75用	①(株)京都スパーサー ②(株)恵信工業 ③ゼン技研(株)	①KSクルリンKFタイプ ②KS工法かチットフック ③セスロックMLタイプ
場所打杭鉄筋かごスパーサー固定金具	D32用, D25用, D22用		
場所打杭鉄筋かご井桁筋固定金具	D25×D22, D22×D22		
場所打杭鉄筋かご主筋重ね継手固定金	D32×D25, D32×D22, D25×D25, D22×D22		

14 県産木材の使用(県産木製型枠以外)(対象 無)

15 新技術の活用について(対象 有)

本工事の場所打杭鉄筋かご組立て工においては、無溶接工法(NETIS 番号KK-120075-VE)によるものとする。

なお、他の工法(製品)で施工する場合は施工前に監督員の承諾を得ること。

16 アスファルト舗装工事(施工途中の交通開放)(対象 無)

○仮設材供用日数表

仮設材	供用日数
仮棧橋	144日
覆工板	144日
敷鉄板	162日
鋼矢板 (A 1側)	148日
鋼矢板 (A 2側)	129日
水替えポンプ (A 1側)	78日
水替えポンプ (A 2側)	70日
仮囲い	166日

18 各種様式

各種様式については、下記徳島県ホームページよりダウンロードすること。

<https://www.pref.tokushima.lg.jp/jigyoshanokata/kendozukuri/kensetsu/2009091500237>